

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2
科目の目標		(1) 実社会に必要な国語 の知識や技能を身に付けるようにする 常用 漢字の読み書き ができ、文章の中で使うことができる (2) 論理 的に考える力、共感したり想像したりする力を伸ばし、他者と 伝え合う力 を高め、自分の思いや 考えを広げ たり深めたりできる (3) 言葉の価値を認識し、生涯にわたって 読書 し自己を向上させ、 言語文化 の担い手としての自覚をもち、言葉を通し 他者や社会に関わろう とする態度を養う			
使用教科書・副教材		新編現代の国語（数研出版） 新版チャレンジ常用漢字（第一学習社）			
学習上の留意点		(1) 単元試験：単元が終わるごとに年数回行われます (2) 課題提出：単元ごとに課題が出されます。締め切り前に必ず出しましょう (3) 小テスト：漢字の書き取り等を行います			

評価基準・評価方法

評価の観点 （身に付けたい力）		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	実社会に必要な国語 の知識や技能を身に付けるようにする 常用 漢字の読み書き ができ、文章の中で使うことができる	十分にできる(^O^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 課題 小テスト
思考・判断・表現 【思】	論理 的に考える力、共感したり想像したりする力を伸ばし、他者と 伝え合う力 を高め、自分の思いや 考えを広げ たり深めたりできる	十分にできる(^O^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 課題 提出物
主体的に学習に取り組む態度 【主】	言葉の価値を認識し、生涯にわたって 読書 し自己を向上させ、 言語文化 の担い手としての自覚をもち、言葉を通し他者や 社会に関わろう とする態度を養う	十分にできる(^O^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	課題 提出期限 意欲・態度

現代の国語

年間指導計画（前期）			
学期	単元・学習内容	学習のねらい （単元の目標）	評価の観点 （身に付けたい力）
前	文章の構成をとらえよう 1	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を把握しようとしている	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を把握することができる 【思】 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解できる【知】
	目的や場面に応じたスピーチをしよう	「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会から話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合っている	実社会から話題を決め、情報を収集、整理して、伝えあうことができる【思】 実社会で必要な語句の量を増やし、語句や語彙を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること【知】
	筆者の考えを踏まえ、自分の好きになれるもの・ことをスピーチしよう	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが伝わるように考えを明らかにして、相手の反応を予想して論理の展開を考え、話の構成や展開を工夫している	自分の考えが伝わるように考えを明らかにして、相手の反応を予想して論理の展開を考え、話の構成や展開を工夫することができる【思】 主張と論拠など情報と情報との関係を理解できる【知】

期	報告書をつくろう	「書くこと」において、自分の考えが伝わるよう根拠を示し、表現の仕方を工夫している	自分の考えが伝わるよう根拠を示し、表現の仕方を工夫できる【思】 話し言葉と書き言葉の違いを踏まえた表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる【知】
	集めた情報を吟味して自分の考えを伝えよう	「書くこと」において、実社会から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている	実社会から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にできる【思】 情報の妥当性や信頼性の理解を深め、使うことができる【知】 文章の効果的な組立て方や接続の仕方を理解できる【知】
	文章の展開を把握しよう	「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の展開、表現の仕方を評価し、聞き取った情報を整理して自分の考えを深めている	論理の展開を予想しながら聞き、話の展開、表現の仕方を評価し、聞き取った情報を整理して自分の考えを深めることができる【思】 常用漢字の読み書きができる【知】 推論を理解し使うことができる【知】
後 期	文章の構成をとらえよう2	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を把握している	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨や要点を把握することができる【思】 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方を理解できる【知】 個別の情報と一般化された情報との関係を理解できる【知】
	議論しよう	「話すこと」において、論点を共有し、考えを深め、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している	論点を共有し、考えを深め、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる【思】
	文章を読み、自分の考えを論述しよう	「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫できる【思】 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる【知】
	複数の文章について書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めよう	「読むこと」において、複数の文章内の情報を関係付け、書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開を評価したり、自分の考えを深めている	複数の文章内の情報を関係付け、書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開を評価したり、自分の考えを深めることができる【思】 実社会と自己との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる【知】
	プレゼンテーション	「話すこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる【思】 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる【知】
	地域の名所を紹介しよう	「書くこと」において、自分の書いた文章が目的や意図に応じて書かれているかを読み直し、他者からの助言を踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直している	自分の書いた文章が目的や意図に応じて書かれているかを読み直し、他者からの助言を踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる【思】

令和 7 年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2
科目の目標		(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う			
使用教科書・副教材		新編言語文化（数研出版） 新版チャレンジ常用漢字（第一学習社）			
学習上の留意点		(1) 単元試験：単元が終わるごとに年数回行われます (2) 課題提出：単元ごとに課題が出されます。締め切り前に必ず出しましょう (3) 小テスト：漢字の書き取り等を行います			

評価基準・評価方法

評価の観点 （身に付けたい力）		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分にできる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	生涯にわたる 社会生活 に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の 言語文化 に対する理解を深めることができるようにする	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 小テスト 学習課題 50%
思考・判断・表現 【思】	論理的 に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、 他者との関わり の中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 学習課題 提出物 30%
主体的に学習に取り組む態度 【主】	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって 読書 に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して 他者や社会に関わろう としている	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	学習課題 提出物 意欲・態度 20%

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい （単元の目標）	評価の観点 （身に付けたい力）
	地域のことば（方言）に親しもう	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える	文章の内容や構成、展開を的確に捉えることができる【思】 文字や言葉の変化を理解し、古語と現代語のつながりを理解できる【知】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる【知】

前期	ものの考え方を深め自分の考えを持とう	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化への考えをもっている	作品を踏まえ、ものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化への自分の考えをもつことができる【思】 言語文化への理解につながる読書の意義を理解することができる【知】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる【知】
	現代文と古典の比べ読みをしよう	・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる【思】 言語文化への理解につながる読書の意義を理解できる【知】
	古文に親しもう	・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する	作品に関するものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できる【思】 古典に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解できる【知】 和漢混交文など歴史的な文体の変化を理解できる【知】
後期	古典をヒントに創作しよう	・「書くこと」において、自分の知識や体験から題材を決め、集めた材料をよく調べ、表現したいことを明確にする	自分の知識や体験から題材を決め、集めた材料をよく調べ、表現したいことを明確にすることができる【思】 本歌取りや見立てなど、言語文化に特徴的な表現を理解できる【知】 古典の世界に親しむために、作品の歴史的背景を理解できる【知】
	ことばをよく調べ比べよう	「読むこと」において、作品に関して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化への考えをもつ	・作品に関して、ものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化への自分の考えをもつことができる【思】 ・言葉には文化を支える働きがあることを理解できる【知】 ・言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの理解を深め、語感を磨くことができる【知】
	心に残る言葉	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる【思】 常用漢字の読み書きができる【知】
	漢文に親しもう	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる【思】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる【知】
	古典の世界を楽しもう	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる【思】 言語文化の理解につながる読書の意義を理解できる【知】

教科	公民	科目	公 共	単位数	2
科目の目標		人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざすことにより、一人の国際人としての人格が形成される。			
使用教科書・副教材		・高等学校 新公共（第一学習社） ・クローズアップ公共2024（第一学習社）			
学習上の留意点		人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分理解できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	評価の観点（知識・技能）について、十分な理解と活動をした。	評価の観点（知識・技能）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（知識・技能）について、理解、行動ともに不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・小テスト
思考・判断・表現 【思】	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（思考・判断・表現）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その取り組みは、不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	
主体的に学習に取り組む態度 【主】	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・小テスト

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち Ⅰ 公共的な空間と人間とのかかわり Ⅱ 社会に参画する自立した主体としての 第2章 公共的な空間における人間としての あり方・生き方 Ⅰ 人間と社会のあり方についての探求 Ⅱ 選択・判断の手がかりとなる倫理的価値 第3章 公共的な空間における基本的原理 Ⅰ 自立した主体となることに向けて Ⅱ よりよい公共的な空間づくりをめざして	知識 ・自らの体験を振り返り自らを成長させる人間の在り方生き方について理解する。・人間は個人として相互に尊重される存在。対話を通して互いの存在を理解し高め合う事の出来る社会的存在である。・伝統、文化、先人の取組みや知恵に触れることで自らの価値観を形成し他者の価値観を尊重することが出来るようになる存在である事を理解する。 思考力・判断力・表現力 ・社会に参画する自立した存在とは孤立ではなく地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。	知・・・現状、過去、未来の社会についてを知る。 思・・・社会の一員として自己の在り方や、行動を考える。 判・・・知って、考えることにより、日常をどう生きるのか、生きるべきかを社会の一員として考える。
	小テスト (数回)		
中期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義 第2章 政治的主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	知識及び技能 ・選択、判断の手がかりとして、行為の結果、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。・現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見出すことに向け、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが重要であることを理解する。・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、世情をみとる技能を身に付けること。 思考力・判断力・表現力 ・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。	知・・・憲法を知り、立憲国家としての在り方を知る。 思・・・憲法と現状の差を考えて、現行及び未来はどうあるべきかを考える。判・・・現状の世の中をしっかりと捉え、憲法にてらしてどうなのかを考える。
	小テスト (数回)		
後期	主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界 主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障	知識 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協同の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。	知・・・国際化と言われる現在の世界と日本との関わりを知る。 判・・・日本人として考える世界と日本。外国から見た世界と日本とは大きく異なっている点が多い。何が違うのか。それはどうしてかを考える。
	小テスト (数回)		
後期	主題13 経済のグローバル化 第3編 接続可能な社会作りの主体となる私 ① 地球環境問題 ② 資源・エネルギー ③ 生命倫理 ④ 情報 ⑤ 国際社会の問題	思考力、判断力、表現力 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関りにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。	科学的、医学的進歩による現状と倫理観のギャップについて考察、調査、研究、発表を行う。
	小テスト (数回)		

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位(週3時間・年間105時間)
科目の目標		(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしたりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
使用教科書・副教材		新編数学Ⅰ（数研出版） パラレルノート数学Ⅰ＋A（数研出版）			
学習上の留意点		(1)問題解決に至る過程の正しさが重要なので、計算・作図などの計算過程はしっかり書くようにする。（記述する力をつけよう） (2)授業用ノート、問題集(書き込み式)は定期的に提出する。（点検・評価します） (3)学習内容の定着を確認するために、単元テストや小テストを実施する。（確認・評価します）			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての知識が身に付いている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が身に付いている。	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての知識が概ね身に付いている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が概ね身に付いている。	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての知識が十分に身に付いていない。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が十分に身に付いていない。	・単元テスト ・小テスト など
思考・判断・表現 【思】	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現して、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が身に付いている。 ・事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考える力が身に付いている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身に付いている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が概ね身に付いている。 ・事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考える力が概ね身に付いている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が概ね身に付いている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が十分に身に付いていない。 ・事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考える力が十分に身に付いていない。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が十分に身に付いていない。	・単元テスト ・授業での活動 など
主体的に学習に取り組む態度 【主】	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしたりしようとしている。	・数学を活用しようとしたり、粘り強く考えることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善をすることができる。	・数学を活用しようとしたり、考えることが概ねできる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めることが概ねできる。	・数学を活用しようとしたり、考えることが十分にできない。 ・問題解決の過程を振り返って考察をすることが十分にできていない。	・授業への取組 ・課題 ・ノート ・提出物 など

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	数学	科目	数学 A	単位数	2単位(週2時間・年間70時間)
科目の目標			(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに,事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
使用教科書・副教材			新編数学 A (数研出版) パラレルノート 数学 I + A (数研出版)		
学習上の留意点			(1)問題解決に至る過程の正しさが重要なので,計算・作図などの計算過程はしっかり書くようにする。(記述する力をつけよう) (2)授業用ノート,問題集(書き込み式)は定期的に提出する。(点検・評価します) (3)学習内容の定着を確認するために、単元テストや小テストを実施する。(確認・評価します)		

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	- 図形の性質,場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 - 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 - 事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	- 図形の性質,場合の数と確率についての知識が身についている。 - 数学と人間の活動の関係について,認識が深まっている。 - 事象を数学的に表現・処理する技能が身についている。	- 図形の性質,場合の数と確率についての知識が概ね身についている。 - 数学と人間の活動の関係について,認識が概ね深まっている。 - 事象を数学的に表現・処理する技能が概ね身についている。	- 図形の性質,場合の数と確率についての知識が十分に身についていない。 - 数学と人間の活動の関係について,認識の深まりが十分でない。 - 事象を数学的に表現・処理する技能が十分に身についていない。	- 単元テスト - 小テスト - など
思考・判断 ・表現 【思】	図形の構成要素間の関係などに着目し,図形の性質を見いだし,論理的に考察する力,不確実な事象に着目し,確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力,数学と人間の活動との関わりに着目し,事象に数学の構造を見いだし,数理的に考察する力を身に付けている。	- 図形の性質を見いだし,論理的に考察する力が身についている。 - 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が身についている。 - 事象に数学の構造を見いだし,数理的に考察する力を身に付けている。	- 図形の性質を見いだし,論理的に考察する力が概ね身についている。 - 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が概ね身についている。 - 事象に数学の構造を見いだし,数理的に考察する力を概ね身に付けている。	- 図形の性質を見いだし,論理的に考察する力が十分に身についていない。 - 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力が十分に身についていない。 - 事象に数学の構造を見いだし,数理的に考察する力が十分に身についていない。	- 単元テスト - 授業での活動 - など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとする。	- 数学を活用しようとしたり,粘り強く考えることができる。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深め,評価・改善をすることができる。	- 数学を活用しようとしたり,考えることが概ねできる。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めることが概ねできる。	- 数学を活用しようとしたり,考えることが十分にできない。 - 問題解決の過程を振り返って考察をすることが十分にできていない。	- 授業への取組 - 課題 - ノート - 提出物 - など

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章 数と式 【数Ⅰ】 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 単元テスト	数を実数までに拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式についての理解を深め、それを活用できるようにする。	簡単な無理数の計算。乗法公式や因数分解の公式を適切に用いた計算。不等式の性質を理解し1次不等式の解を求める。【知】 既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形する。【思】
	第3章 2次関数 【数Ⅰ】 1 2次関数とそのグラフ 単元テスト	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次方程式及び	値の変化やグラフの特徴を理解する。2次方程式や2次不等式の解と、2次関数のグラフとの関係について理解する。【知】
	2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 (夏休み明け) 単元テスト	2次不等式を解くなどの活用ができるようにする。	2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え問題を解決しようとする。【思】
	第4章 図形と計量 【数Ⅰ】 1 三角比 2 三角形への応用 単元テスト	三角比の意味を理解し、具体的な事象の考察に活用するとともに三角比の相互関係について理解する。正弦定理や余弦定理を理解し、平面図形や空間図形の計量に活用できる。	鋭角の三角比の意味や鈍角まで拡張する意義を理解する。正弦定理や余弦定理のなどを用いて辺の長さや角の大きさなどを求める。【知】 図形の構成要素間の関係に着目し日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え問題を解決しようとする。【思】
後期	第2章 集合と命題 【数Ⅰ】 単元テスト	図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、総合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題の考察に生かすことができるようにする。	集合と命題に関する基本的な概念を理解する【知】 集合の考えを用いて命題を論理的に考察する【思】
	第1章 場合の数と確率 【数A】 1 場合の数 2 確率 単元テスト	具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。	数え上げの原則について理解する。順列、組合せの意味を理解し、それらの総数を求める。確率の意味を理解し、様々な事象の確率や期待値を求める。【知】 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する。【思】
	第2章 図形の性質 【数A】 1 平面図形 2 空間図形 (冬休み明け) 単元テスト	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。	三角形やなどに関する基本的な性質について理解する【知】 図形の性質に着目し、その性質について論理的に考察したり説明する。【思】
	第3章 数学と人間の活動 【数A】 単元テスト	整数の性質についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理できるようにする。	数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解する。【知】 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。【思】
	第5章 データの分析 【数Ⅰ】 ※春休み明けに確認テスト予定	統計の基本的な考えを理解するとともに、それらを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	分散、標準偏差、散布図及び相関関係の意味やその使い方を理解する。【知】 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。【思】

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	3
科目の目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察を行うこと ことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う			
使用教科書・副教材		化学基礎（実教出版） 化学基礎 エブリィノート			
学習上の留意点		(1) 授業ノートは定期的に点検・評価します。 (2) 問題集(書き込み式)は定期的に提出する。(点検・評価します) (3) 定期試験の他に小テストを実施する。(実力の定着を確認し、評価します) (4) 実験行ったときは原則レポートを書き、提出する。(点検・評価します)			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	化学と人間生活、物質の構成、物質の変化の事象・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を十分に身につけている。	・化学と人間生活、物質の構成、物質の変化の事象・現象についての概念や原理・法則などを十分理解している ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を十分に身につけている。	・化学と人間生活、物質の構成、物質の変化の事象・現象についての概念や原理・法則などを概ね理解している ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を概ね身につけている。	・化学と人間生活、物質の構成、物質の変化の事象・現象についての概念や原理・法則などを満足に理解できていない。 ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を満足に身につけていない。	定期試験 小テスト など
思考・判断 ・表現 【思】	化学と人間生活、物質の構成、物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	・事象を科学的に考える力が十分に身についている。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が十分に身についている。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が十分に身についている。	・事象を科学的に考える力が身についている。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が身についている。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身についている。	・事象を科学的に考える力が満足に身につけていない。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が満足に身につけていない。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が満足に身につけていない。	定期試験 学習課題 実験レポート など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	化学と人間生活、物質の構成、物質の変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	化学に主体的に関わり、事象に対して科学的に探究しようとしている態度が十分に見られる	化学に主体的に関わり、事象に対して科学的に探究しようとしている態度が概ね見られる。	化学に主体的に関わり、事象に対して科学的に探究しようとしている態度が満足に見られない	学習課題 授業へ取り組み姿勢 プリント提出 など

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1編 化学と人間生活	・日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解すること。	身近な物質の性質を理解する 【知】 化学の特徴について考える 【思】
	第2章 物質の成分と構成元素	・物質の分離や精製の実験などを行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けること。 ・元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解すること。 ・粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解すること。 ・身近な物質や元素について、観察、実験などを通して基本的技能を習得し、探究し、科学的に考察し、表現すること。	物質の分離や精製、単体・化合物、粒子の熱運動や物質の三態変化について理解する。 また観察実験における基本的技能について習得する【知】 身近な元素や物質について、探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】
	第2編 物質の構成		
	第1章 原子の構造と元素の周期表 第2章 化学結合	・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解すること。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解すること。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解すること。 ・金属の性質及び金属結合を理解すること。 ・物質の構成について、観察、実験などを通して基本的技能を習得し、探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現すること。	原子の構造や電子配置、イオン、様々な化学結合やそれによってできる分子や物質について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】 原子や様々な化学結合について、探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして、表現する【思】【主】
後期	第3編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	・物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解すること。 ・化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解すること。 ・物質と化学反応式について、観察、実験などを通して基本的な技能を習得し、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。	物質や化学反応式について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】 物質や化学変化について、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして、表現する【思】【主】
	第2章 酸と塩基	・酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解すること。 ・酸や塩基について、観察、実験などを通して基本的な技能を習得し、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。	酸や塩基について理解する。 また観察実験における基本的技能について習得する【知】 酸や塩基について、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして、表現する【思】【主】
	第3章 酸化還元反応	・酸化と還元が電子の授受によることを理解すること。 ・酸化と還元について、観察、実験などを通して基本的な技能を習得し、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。	酸化還元反応について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】 酸化還元反応について、探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして、表現する【思】【主】

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
科目の目標		・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになる。運動の多様性や体力の必要性について理解できる。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が育つ。健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
使用教科書・副教材					
学習上の留意点		①他の人の動きを見たり、わからないことを聞いたり、互いに教え合ったりする。 ②練習や試合では積極的に参加する。 ③動画、プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④安全に授業を進めるために勝手な行動をしない。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	各種の運動の行い方を理解し、言ったり書いたりしている。また、基本的な動きや技能を身に付けている。	各種の運動の行い方を理解し、基本的な動きや技能が身に付いている。他の生徒に教えたりアドバイスを聞いている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	各種の運動の行い方や技能が概ね身に付いている。わからないことを聞いたりしてわかろうとしている。課題やレポートの作成ができている。	各種の運動の行い方や技能が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	自己の運動の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	自分の課題が何なのか理解し、その解決のためにはどうしたらよいか考え、活動を工夫している。工夫してできたことを他者にわかりやすく伝え、他の意見を尊重することができる。	自分の課題解決のために他者の意見を聞きながら活動を工夫している。自分の意見や考えを深めることができている。	自分の課題が何なのかわからず、活動が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、運動に進んで取り組もうとしている。	運動の楽しさや喜びを味わうために他者のことも考えて積極的に運動に取り組んでいる。レポート等の提出がしっかりとできている。	運動の楽しさや喜びを味わいながら運動に取り組んでいる。レポートの提出ができている。	運動の楽しさや喜びを味わえず、積極的に運動に取り組んでいない。レポートの提出が不十分である。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	①体育理論 ②体づくり運動・体ほぐし運動・体力を高める運動 ③陸上競技（短距離走、長距離走、走り幅跳び） ④ソフトボール	・主体的に取り組んでいる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている ① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。【知】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断するとともに、他者に伝えている。【思】スポーツの特性や発展についての学習に自主的に取り組んでいる。【主】
	勉強集中期間	・フェアなプレイを大切にしている	②体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組む、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、互いに高め合い、一人一人の違いに応じた動きを大切にし、健康安全を確保している。【主】
	⑤バレーボール ⑥サッカー	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしている ⑦ ・よい演技を讃えようとしている ⑨ ⑩	③技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。スピードを維持して速く走れる。ペースの変化に対応して走れる。踏切から着地までの動きを滑らかにして跳べる。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、ルールやマナーを大切にしている。自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた動きを大切にし、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		④技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。バット、グラブ、ボールの操作を状況に応じて行っている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】
後期	⑦武道 ⑧バスケットボール	・互いに助け合い教え合おうとしている ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ・自己の責任を果たそうとしている ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ・話し合いに貢献しようとしている	⑤⑥⑧技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。ボール操作と状況に応じたプレーをしている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間	① ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩	⑦伝統的な考え方、技の名称や稽古の仕方、課題解決方法や試合の仕方について理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技を用いて攻防している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしている。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にし、健康安全を確保している。【主】
	⑨マット運動 ⑩ダンス	・一人一人の違いを大切にしようとしている ② ③ ⑨ ⑩ ・健康、安全を確保している ② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑨基本的な技を安定して行う、条件を変えた技や発展技を行う及びそれらを構成し演技している。【知】自己の課題を発見し、計画的に取り組み方を工夫するとともによい演技を讃え、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にし、健康、安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		⑩表現の仕方、課題解決方法、体力の高め方を理解している。リズムに合わせ、全身を使って表現し、仲間と対応して踊っている。【知】自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて取り組み方を工夫し、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康安全を確保している。【主】

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
科目の目標		・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につける。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
使用教科書・副教材		新高等保健体育（50／大修館／保体702）			
学習上の留意点		①個人、グループで意見を出し合い、学習を進める。 ②発言や話し合いには積極的に参加する。 ③プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④インターネットなどを利用して調べ学習を行い、レポートを作成する。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	身近な生活における健康・安全について理解したことを言ったり書いたりしている。	身近な生活における健康・安全について理解している。他の生徒に教えたり、アドバイスをすることができている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	身近な生活における健康・安全について概ね理解している。わからないことを聞いたりしてわかろうとしている。課題やレポートの作成ができています。	身近な生活における健康・安全について理解が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	身近な生活における健康に関する課題を見つけ、その解決を目指して思考判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	身近な生活における健康に関する課題がわかり、思考判断して解決している。また、他者にわかりやすく伝えている。	身近な生活における健康に関する課題がわかり、思考判断して解決しようとしている。自分の意見や考えを深めることができています。	身近な生活における健康に関する課題が何なのかかわからず、思考判断が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について学習に進んで取り組もうとしている。	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について積極的に学習に取り組む、生活に生かしている。	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について考えて学習に取り組んでいる。	健康を大切にせず、自己の健康の保持増進について考えず学習に取り組んでいる。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	①体のつくりと働き	・体のつくりと働きについて説明できる。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。【知】
	②健康の考え方と成り立ち	・さまざまな健康の考え方、健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	
	③私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景、現在の健康問題について例をあげて説明できる。	
	④生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因、一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的異な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。【思】
	⑤がんの原因と予防	・がんの種類や原因、一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	
	勉強集中期間		
	⑥がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて、がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組んでいる。【主】
	⑦運動と健康	・健康と運動の関係、目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	
	⑧食事と健康	・食事と健康の関係、健康的な食事のとり方について説明できる。	
	⑨休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方、健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について説明できる。	
	⑩喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害、喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	
	勉強集中期間		
後期	⑪飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	
	⑫薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響、薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	
	⑬精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状、現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	
	⑭精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法、精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	
	⑮精神疾患からの回復	・精神疾患の治療、精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	
	勉強集中期間		
	⑯現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	
	⑰感染症の予防	・感染症の予防対策についての3原則、感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	
	⑱性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なること、またその対策について個人と社会に分けて例をあげて説明することができる。	
	⑲健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因、健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	
	⑳健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	
	勉強集中期間		

教科 科目 単位数	芸術 書道Ⅰ 2	受信校	北海道月形高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第一学年 必修・一斉
教科書 副教材	「書道Ⅰ」（教育出版）				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

（高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）より）

2 学習のポイント

- (1) 作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用することもありますので、活用してください。
- (2) ほぼ毎時間、清書を提出してもらいます。自分で写真を撮影し、classroomを通して提出します。
- (3) 試験は実施しません。毎回の提出作品やポートフォリオへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道Ⅰでは、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。
- (4) この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを積極的に、文章や発言で表現するように心がけてください。
- (5) 友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。
- (6) 実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・ 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・ 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点との関連（◎＝特に関連の深いもの）

評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア 学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ ワークシート	○	◎	◎	FigJam、ワークシート、ポートフォリオ等への記述
ウ 作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

- (1) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、classroomやポートフォリオに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○題材 ●主な教材	配 当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。 □対面授業① (予定)	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法についても理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 書風と結構法 ●九成宮醴泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ ・様々な楷書の表現の習得	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも様々な違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習② 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に留意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。 ・軽快な書風と重厚な書風	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。 筆圧の違いによる表現の差異に気づき表現できる。	
	○漢字の書の学習③ 円筆と方筆 ●牛橛造像記 ●鄭義下碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・方勢で力強い書風 ・円勢でゆったりした書風	初唐の三大家のような楷書の姿だけではなく、様々な楷書の表現があることを理解し、様々な表現をするための筆使いを表現することができる。	
6 / 7	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序 (神龍半印本)	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ ・蘭亭序の良さを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○多様な蘭亭序を味わう ●蘭亭序 (八柱第二本・八柱第三本)	2	【B 鑑賞】 ・2 種類の蘭亭序を「見る」と「書くこと」を通して鑑賞を深める。	2 種類の蘭亭序の違いを具体的に指摘し、違いを見極めたうえで、根拠を明らかにしてどちらの蘭亭序が好きかを説明する。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・祭姪稿や風信帖の書かれた背景を理解し、古典を味わう。	祭姪稿の書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を感じ取ることができる。 蘭亭序とは異なる勢いのある行書の表現をすることができる。	
8 / 9 / 10	○漢字の書の学習⑥ 漢字創作 ●自選の漢字	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・画仙紙や色紙に文字を書く	これまでの古典の学習を踏まえながら、自分なりの意図に応じた書表現を工夫しながらすることができる。	
	○漢字の書の学習⑦ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、藏鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
	○漢字の書の学習⑧ 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の落款印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深めることができる。また、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。自分なりの落款印を制作することができる。	

11 / 12	○漢字の書の学習⑨ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	2	【A表現】【B鑑賞】 ・隷書の筆使いの習得	隷書の基本的な筆使いを表現することができる。臨書例との違いを指摘することで、細かな字形の違いを意識して臨書できる。
	○古典を探究しよう ●曹全碑 ●張遷碑 ●様々な隷書	4	【B鑑賞】 ・張遷碑の分析 ・隷書の分類	張遷碑を多角的に観察し、特徴や良さを説明することができる。多様な隷書を、根拠を明確にしながら分類することができる。
	○漢字の書の学習⑩ 草書の用筆と運筆 ●書譜	2	【A表現】【B鑑賞】 ・基本的な草書の筆使いの習得	草書の特徴を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。
	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌 ●蓬萊切	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得 ・和歌を書く	仮名の基本的な筆使いができるようになる。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 単体と連綿 ●高野切第三種 ●元永本古今和歌集	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名の書風の違いを理解する。	同じ和歌の作品を比較し、違いを指摘することで、書風の特徴を言葉にすることができる。字幅の変化や墨の付け方に注意して書くことで、行の流れを表現できる。
	○仮名の書③ 散らし書き ●三色紙	2	【A表現】【B鑑賞】 ・色紙の表現を味わう。	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び表現することができる。
	○仮名の書④ 仮名の創作 ●自選の和歌	2	【A表現】【B鑑賞】 ・散らし書きの創作	仮名の基本的な用筆を生かして、自選の歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
1 / 2 / 3	○漢字仮名交じりの書の学習① 楷書の古典の応用 ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・楷書の筆使いを応用した表現。	漢字仮名交じりの書の歴史等に触れ、どのような書なのかを理解するとともに、これまでに学習した楷書の古典の用筆を生かした表現をすることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な漢字仮名交じりの書の作品 ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・行書の古典の表現を応用した表現。 ・字形を工夫して書く。	これまで学習してきた行書の古典を生かして書くことで、筆脈に留意して書くことができる。また、字形を工夫して表現を広げることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習③ カレンダーの制作 ●自選のことば等	4	【A表現】【B鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫 □対面授業②（予定）	作品制作の過程を理解し、古典の応用、構成の工夫といった視点を加味しながら自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	【A表現】【B鑑賞】 ・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4単位（週4時間、年間140）
科目の目標		日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 １．必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を捉えたりすることができる。 ２．必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を捉えたりすることができる。 ３．基本的な文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり、書いたりして伝え合える。			
使用教科書・副教材		・ All Aboard Ⅰ ・ ユメタン0 ・ All AboardⅠワークブック			
学習上の留意点		（１）講義、ペアワーク、作業、発表など様々な手法で学習する （２）発言や話し合い等には積極的に参加する （３）プリント提出、小テスト等にもしっかり取り組む			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法 割合
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	（１）外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	【L】話された文等を聞いてその内容をとらえる技能を身に付けている 【W】書かれた文等を読んでその内容をとらえる技能を身に付けている 【Sや】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている 【W】情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている	【L】話された文等を聞いてその内容をとらえる技能を概ね身に付けている 【W】書かれた文等を読んでその内容をとらえる技能を概ね身に付けている 【Sや】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を概ね身に付けている 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を概ね身に付けている 【W】情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を概ね身に付けている	【L】話された文等を聞いてその内容を捉える技能が十分身につけていない 【W】書かれた文等を読んでその内容を捉える技能が十分身につけていない 【Sや】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能が十分身につけていない 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能が十分身につけていない 【W】情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能が十分身につけていない	考查 休み明けテスト 小テスト など 50%
思考・判断 ・表現 【思】	（２）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	【L】必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点をとらえている 【R】必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点をとらえている 【Sや】情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている 【W】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている	【L】必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要要点を概ねとらえている 【R】必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要要点を概ねとらえている 【Sや】情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったり概ねしている 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね話して伝えている 【W】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね書いて伝えている	【L】必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要要点を捉えられていない 【R】必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要要点を捉えられていない 【Sや】情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりが十分できていない 【Sは】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることが十分できていない 【W】情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることが十分できていない	考查 休み明けテスト 授業での活動 など 30%
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	（３）外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	【L】話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている 【R】書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている 【Sや】聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている 【Sは】聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている 【W】読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	【L】話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている 【R】書き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている 【Sや】聞き手、話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている 【Sは】聞き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている 【W】読み手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	【L】話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしているが十分でない 【R】書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしているが十分でない 【Sや】聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしているが十分でない 【Sは】聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしているが十分でない 【W】読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしているが十分でない	授業への取り組み 課題 ノート 提出物 20%

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	観点ごとの主な評価対象 (①知技②思判表③主体的)
前 期	Lesson1 Breakfast in the world Lesson2 Australia's cute Quokkas	●世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。過去形を使える。好きな食べ物について、英語で述べることができる。 ●オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。進行形：〈be動詞＋動詞の-ing形〉を使える。好きな動物について、英語で述べることができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	試験（勉強集中期間）		
	Lesson3 A train driver in Sanriku Lesson4 A miracle Mirror 休明テスト	●被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。助動詞を使える。ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べることができる。 ●海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。to不定詞：〈to＋動詞の原形〉を使える。 行ってみたい場所について、英語で述べることができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	試験（勉強集中期間）		
後 期	Lesson 5 Learning from the Sea Lssson 6 A funny picture from the Edo Period	●高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。動名詞：〈動詞の-ing形〉が使える。将来の夢について、英語で述べることができる。 ●江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。受け身：〈be動詞＋過去分詞〉を使える。好きな絵について、英語で述べることができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	試験（勉強集中期間）		
	Lesson 7 A Diary Of Hope Lesson 8 A Door to a New Life 休明テスト	●アメリカ人の生活と日記を通して、希望を授業を通して、生きることの意味について考える。比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉関心のある人物について、英語で説明することができる。 ●ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 現在完了形：〈have[has]＋過去分詞〉 人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	試験（勉強集中期間）		★テスト後教科書残りの部分

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	家庭	科目	家庭総合（1年必修）	単位数	2単位（週2時間・70時間）
科目の目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。			
使用教科書・副教材		家庭総合（実教出版）			
学習上の留意点		(1) 講義、グループ活動、実習、作業など、様々な手法で学習する (2) 発言や話し合いに積極的に参加する (3) プリントファイルを提出し、点検評価を受ける			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを分かりやすく作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的におおむね理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できていない。 授業内容を発展させた課題・レポートの一部、または全部を作成することができない。	単元テスト 課題 レポート 作品作り
思考・判断・表現 【思】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	家庭や地域、社会の課題や問題を、多面的な視点で考え、解決策を提案することが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を、自己の視点で捉え、解決策について考えることが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を十分に理解できない。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り
主体的に学習に取り組む態度 【主】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。	社会や地域の一員であることを理解し、自らの課題解決に取り組むことが出来る。	社会や地域の一員としての自己に気づき、自らの課題があることを自覚することができる。	社会や地域の一員であることの自覚が不十分である。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章これからの人生について考えてみよう ①自分の未来予想図を描こう ②これからの人生をデザインする 単元テスト	人の一生について、自己と他者、社会と関わりから様々な生き方があると理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性を理解する。	生涯を見通した生活課題について考え、まとめる【思】
	第2章自分らしい生き方と家族 ①自立と共生 ②ライフキャリア ③共に生きる家族 ④家族に関する法律 単元テスト 第7章衣生活を作る ⑥衣服を作ろう →衣服実習 エプロン・三角巾・きんちゃく袋の作製 単元テスト	家族・家庭の機能と家庭関係、法律、福祉について理解する。 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める 被服材料、構成、製作、衛生及び管理について理解し、衣生活の自立に必要な技術を身につける。	家族・家庭に関する事項を理解する【知】 家族や地域とのかかわり、今後の生き方について考える【思】 布の扱いや性質について理解し、作品を完成させる【知】 【思】
後期	第7章衣生活を作る ①人と衣服のかかわり ②衣服の素材と種類と特徴 ③衣服の選択から管理まで ④持続可能な衣生活を作る ⑤私たちがつなぐ衣生活の文化 →エコたわしづくり 単元テスト	主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫できる。	着装や衣文化について理解し、自分らしい着装を表現する【知】【思】
	第9章消費行動を考える ①消費行動と意思決定 ②消費生活の現状と課題 ③消費者の権利と責任 ④ライフスタイルと環境 単元テスト 第10章経済的に自立する ①暮らしと経済 ②将来のプランニング 単元テスト	消費行動における意思決定や責任ある重要性について理解を深め、生活情報の収集・整理が適切にできる。 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫できる。 家計の構造について理解するとともに、生活における経済と社会とのかかわりについて理解を深める。 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報収集・整理が適切にできる。	身近な消費行動について理解する【知】 法律や消費生活の問題を理解し、自分の生活の消費行動を多面的に考える【知】【思】 家庭経済の仕組みを理解し、経済的な自立のため職業選択について考えを深める【知】【思】

令和7年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2単位（週2時間・年間70時間）
科目の目標		(1)情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
使用教科書・副教材		最新情報Ⅰ（実教出版） 最新情報Ⅰ学習ノート（実教出版）			
学習上の留意点		(1)授業プリントを活用し、授業を行います。その時間毎に提出します。（点検・評価） (2)問題集（サポートノート）は章終了毎に取り組み、検印を受ける（点検・評価） (3)実習等はパソコン室で実施します。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付いている。情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	・情報の特性や情報技術の仕組みとその効果や影響について理解している。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決ができる技能を身に付いている。	・情報の特性や情報技術の仕組みとその効果や影響について概ね理解している。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決ができる技能を概ね身に付いている。	・情報の特性や情報技術の仕組みとその効果や影響について十分に理解していない。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決ができる技能を十分に身に付いていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など
思考・判断 ・表現 【思】	・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。	・事象を捉え、試行錯誤や振り返りと改善を行い、問題の発見・解決の過程を踏まえ、思考、判断、表現することができる。	・事象を捉え、試行錯誤や振り返りと改善を行い、問題の発見・解決の過程を踏まえ、思考、判断、表現すること概ねできる。	・事象を捉え、試行錯誤や振り返りと改善を行い、問題の発見・解決の過程を踏まえ、思考、判断、表現すること十分にできない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	・知識及び技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けることに粘り強く取り組もうとしている。 ・学びの経験を通して涵養された、情報社会に参画しようとしている。	・知識及び技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けることに粘り強く取り組もうと概ねしている。 ・学びの経験を通して涵養された、情報社会に概ね参画しようとしている。	・知識及び技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けることに十分に粘り強く取り組もうとしていない。 ・学びの経験を通して涵養された、情報社会に十分に参画しようとしていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況 など

	年間指導計画		
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章 情報社会と私たち	・何気なく使っている言葉である「情報」とは何かと理解する。 ・情報モラルにもとづいた行動や、定められている法規・制度について理解する。 ・情報セキュリティの重要性を認識し、ユーザ認証やアクセス制御などの技術について学び、セキュリティ対策の方法を理解する。 ・情報技術の適切な活用方法を身に付ける。	・情報がつまみやすさや働きについて理解する【知】・法を遵守した判断や情報モラルに配慮した適切な判断ができる【思】・情報セキュリティを確保するための知識を身に付けている【知】・インターネット上のトラブルの原因や対策について考え、その結果を適切に表現する。【思】
	第2章 メディアとデザイン	・アナログとデジタルの違いとデジタル情報の特徴を理解する。 ・ビットの概念、2進法の表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 ・ユニバーサルデザインなどを理解する。 ・プレゼンテーションの基本、重要性、手法を身に付ける。	・デジタル情報の特徴について理解する【知】・2進法、10進法、16進法の数の変換の方法について考え、その結果を適切に表現する【思】・音、画像、動画のデジタル化のしくみについて理解する【知】・プレゼンテーションの目的をふまえて、効果的なプレゼンテーションになるか考える。【思】
前期	第3章 システムとデジタル化	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・プログラミング言語の実行のしくみについて理解する。 ・簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムやプログラミングの基本を身につける。 ・モデル化とシュミレーションの考え方や方法を理解する。	・コンピュータの基本的な構成について理解し、基本的な操作ができる技能を身に付けている。【知】・アルゴリズムを適切なプログラミング言語と適切な記述で表現する【思】
	第4章 ネットワークとセキュリティ	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて理解する。 ・IPアドレス、ドメイン名、URLとDNSによるインターネットでのウェブ閲覧、電子メール、情報の暗号化の原理やしくみを理解する。 ・データベースの管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解する。	・プロトコルの必要性やインターネットのプロトコルは階層に分けて構成されていることについて理解する。IPアドレス、ドメイン名、DNSのしくみを理解する。【知】・データベースの働きや必要性について考察し、その結果を適切に表現する【思】
前期	第5章 アルゴリズムとプログラミング	・変数を使用したプログラムを作成する。 ・関数を使用したプログラムを作成する。	・変数を使用して選択構造のプログラムを理解させる。 ・関数を使って、簡単なプログラムを作成することができる。 ・学んできたことの仕上げとして、プログラミングによる簡単なゲームを作成する【知・思・主】